

平成27年度卓話集会におけるディスカッションの概要

No.	地区名	質問・要望・提案	回答
1	石神台	一律で65歳以上を高齢者としてみるのではなく、働ける人は働き、税金を得られるようにすることが大事である。	年齢にとられない考えも取り入れていきたい。今後は老人福祉施設など的高齢者という区分をなくす必要もあるのではないかと考えている。
2	石神台	納税者と扶養者がそれぞれどれくらいいるのか。資料があると議論しやすい。	本日はないが、今後用意する。
3	石神台	処理場跡地の活用など自治会だけで進めていくことはなかなか難しい問題がある。行政側から、サポートできることや政策的な方向性などが示されると、地区としても具体化していけるのではないかと。	町はこうできる、地区はこうできるというwin-winの関係を築きたい。「町が何をしてくれるか」ではなく、「町に何をできるか」ということを考えてみてほしい。 町にある公共施設をどうするのか大きな命題であり、地区会館も町から知恵をだし、話し合いをしていく。
4	石神台	本当に町民の意見を伺おうというのであれば、2時間くらい必要なのではないかと。	あるテーマについて話し合いたいというのであれば、別途時間を設ける。
5	石神台	町が主導して農家に土地を提供させ、地域のみんなで働けるようにできないか。共同で作ったものを自分たちで消費し、また販売して利益を得る。そういうことを町の主導でやってほしい。	農業は町に残された大きな宝であり、町で取り組んでいる大きな施策のひとつ。 農業施策については、別途話をしていきたい。
6	石神台	企業誘致は税金面では絶対必要であり、検討する必要がある。町には土地は少ないが、それに見合った誘致をしていくべきではないかと。	町も努力しているが、新たな津波浸水被害予測などの影響もあり、なかなか難しい。私たちの努力でできるまちづくりとして、農業に大きな観点を向けていく。
7	石神台	支出の削減策として、住民に手伝ってもらえる部分は住民にお願いしてはどうか。町が100の予算で実施していたところを、地区に50の予算で担ってもらうなど。お願いだけではなく、地区が減らした分の一部を還元するなど、努力のさせ方が重要である。	町としても小さなことは行っているが、十分に地区に伝わっていないこともある。これまでもごみの減量化などの話をしている。資料を示して、そういう関心をもつ人を増やす努力をしていく。
8	石神台	町でも新たな法律を活用して空き家の強制的な立ち入りなどを進めてもらいたい。	危険性の高いものなど、立入や勧告、取壊しができるようになった。今後これらの手続きについて条例化していく。都市計画課に相談窓口を設置しているので、まずは相談いただきたい。空き家の活用についても今年度から取り組んでいく。
9	石神台	移住定住の取組みは他の自治体との競争だと思う。大磯町の人口が維持されているのは、どこに要因があると考えているのか。	大磯で第2子、第3子が大磯町で出産される方が多い。大磯には不思議な魅力があり、それは自然・伝統・文化ではないかと思う。